

情報共有

2枚 (非管理用)

宮部, MISAI, I

← プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 7 月 28 日 (木) 11:00~11:25

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 25 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7 月 28 日 6 時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 3 号機原子炉建屋 (1・2 階) Quince による動画

よりプラント状況・配付資料、動画に関して説明。

質疑：

Q. 昨日、3 号機の原子炉への注水量を約 $9.0\text{m}^3/\text{h}$ から約 $8.0\text{m}^3/\text{h}$ に変更した際に設備の振動が確認されたとのことだが、振動の原因は判明したのか。また再度、約 $8.0\text{m}^3/\text{h}$ に下げるのはいつになりそうか。

A. 現在、原因を調査している段階であり、原因と対策が分かり次第、注水量が下げていく予定で、具体的な見通しは未定である。

Q. プロセス主建屋の水位が上昇しており、福島支援室の会見では、2、3 号機からの溜まり水の移送を近く停止するとのことだが、具体的な見通しは。また、移送を停止した場合はいつから再開するのか。

A. プロセス主建屋の水位は約 O.P. 5, 320mm であり、制限値としている O.P. 5, 600mm には残り 280mm なので、ある程度の余裕を見つつ移送を停止したいと考えている。その後、水処理設備の稼働によりプロセス主建屋の水位は低下していくので、水位を見ながら移送を再開していくことになると思う。

Q. 2、3 号機からプロセス主建屋への移送を停止することで、2、3 号機のトレンチが危機的な状況になることはないのか。

A. 現状、2 号機のトレンチで約 40cm、3 号機で約 23cm の余裕があるので、移送を停止したとしても、急激に危機的な状況になることはない。

Q. 4 号機使用済燃料プールの循環冷却系の運転開始はいつ頃の見通しか。

A. 7 月末を予定している。

Q. 4 号機使用済燃料プールの循環冷却系の試運転に問題なければ、そのまま本格運転を開始するのか。

A. その通り。

Q. 3号機原子炉建屋3階の踊り場にガレキがあったため、Quince が上れなかったとのことだが、ガレキの撤去が今後必要になってくるといふことか、見通しも含めて教えていただきたい。また、3階へアクセスできないことで、ホウ酸水注入系以外の注水ラインの検討を先行することもあるのか。

A. 昨日も3号機原子炉建屋3階へ作業員が上ろうとしたが、階段踊り場のガレキのために上がれなかった。今後、他の階段を使えないか、ガレキを撤去できないかなどを検討している。3階の調査は必要だと思っているが、いつになるかは未定であり、今後、確認できているホウ酸水注入系以外の他の2つラインの検討を先行する可能性もある。

Q. 3階の調査をしなくても、注水ラインの変更はあるといふことか。

A. その通り。

Q. 昨日の福島地域支援室の会見で「SARRY は水処理装置の稼働率に換算しない」と言っていたがどうか。

A. キュリオンのセシウム吸着設備がフラッシングの際に2～2時間半程度設備が停止するので、その間、SARRY で繋いで稼働が途切れしない状態にすることや、今後、SARRY の試運転を実施して除染係数がそれなりに出れば SARRY の運転が可能となると思っており、現在はそれらのことを検討している状況である。福島地域支援室の発言内容は確認させていただくが、試運転の状況を見てから判断したいという趣旨だと思っている。

以上